



ハーレーらしい大きな フェアリングだけど シンプルでスマートなのがGOOD!

バッドウイングフェアリングはレアンドロさんの憧れの象徴。しかし、フォグランプなどがアレコレ付いているのは好きではなく、なるべくシンプルなモデルがいいということで、初めて発売された時からストリートグライドに注目していたそうだ。クロムだったフォークやエンジンガードもブラックに統一し、落ち着いた雰囲気仕上げしている

ココが ▼

決め手だ!

パワフルなオーディオの サウンドに誰もが注目!

ブラジル・リオデジャネイロ出身のレアンドロさんは約25年前、16歳の時に日本人の父の親族を頼って来日し、以来ずっと神奈川県で暮らしている。

「ブラジルにいたころからバイクが大好きで、中でもツアラーは夢の存在でした。ブラジルではお医者さんとか企業家しか買えないくらい高価な物なんです」

大きなバッドウイングフェアリングが憧れの象徴だったと言うレアン

ドロさん。そんな彼が選んだのは、ツアラーの中では一番シンプルなストリートグライドだった。

「このフェアリングは大好きだけど、フォグランプは趣味じゃない。だからストリートグライドにしたんです。バギースタイルにカスタムしてありますが、できるだけスッキリさせて、フォークもエンジンガードもブラックにペイントしました。パーツもほとんどブラックの物をチョイスして付けてますね」

1: サドルバッグには各2個ずつスピーカーをセット。フロントスピーカー用アンプも増設している。2: 純正だとバッグのフタに付くスピーカーだが「それでは面白くない!」と、前面に配置。もう一つはリアタイヤに向かってセットしている。これらはセレクトッド横浜店でカスタムした。3: フロントスピーカーもアフターパーツに交換。シートに跨ると合計6個のスピーカーから発する音楽に包み込まれる

元町中華街や山下公園など、横浜の街中を走ることがほとんどだが、薄型のツアールバックは絶対に手放せない装備だと言う。

「サドルバッグにはスピーカーとアンプが入ってるから荷物を入れられない(笑)。このツアールバックなら薄いから低いシルエットを邪魔しなくて、付けててもカッコいいでしょ。オーディオはこだわって選んでいるからすごく音がよくて、横浜の街中を走っていると目立つみたい。観光客によく写真を撮られますよ」

かつてツアラーはロングライドでのみ、その真価を発揮する乗り物だった。しかしストリートグライドなら、都会的なライフスタイルにも順応できることを、レアンドロさんの愛車が証明している。



2013ストリートグライド

Nagatsuka Leandro

長束レアンドロさん

だから! 選んだオーナーの決め手。
ツアラーだつて
横浜の街中を
クールに走れるのだ!!

ストリートグライドは街中をスマートに走れるように作られたモデルだ。
'13年モデルのオーナー長束レアンドロさんはそのコンセプト通り、ロングを走らず横浜の街を走るためのカスタムを施しストリートライドを楽しんでいる。

text/Y.Fujita 藤田佳照
photo/N.Shibata 柴田直行

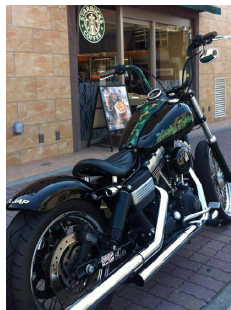
取材協力/セレクトッドカスタムモーターサイクル 横浜店
TEL045-252-2933 www.selected.co.jp

薄型のツアールバックは
街乗りでも重宝します!

シートが低くて跨りやすいのも
街乗りに
ちょうどいいんです。



右: XL883とダイナを乗り継いできたレアンドロさん。ダイナはセレクトッドでかなりカスタムした。「ツアラーは高価だからダイナを買ったけど、結局ストリートグライドが変えるくらいカスタムしちゃった(笑)」 左: シート高が低くて跨りやすいから気軽に街に繰り出すことができる。これこそストリートグライドの大きな魅力だ



アメリカのバギーが好きだが「クリーンなイメージでカスタムしたい」と、“やり過ぎ”にならないようパーツを選んでいるそうだ



シルエットを重視して選んだという薄型のツアールバックはレアンドロさんのお気に入り。「何でも入れちゃうから、いつもグチャグチャ(笑)、もう手放せません!」